2027年3月期第2四半期
決算説明会

Trans Genic Group

～人々の健康と豊かな暮らしのために～
https://transgenic-group.co.jp

2026年11月12日
株式会社トランスジェニックグループ

注：当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した経営計画に基づき作成しておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。また、今後の当社の経営成績及び財政状態につきましては、市場の動向、新技術の開発及び競合他社の状況等により、大きく変動する可能性があります。

目　次

Ⅰ.　2027年3月期第2四半期連結決算概要　・・・　2

Ⅱ.　創薬支援事業の状況　・・・　4

Ⅲ.　投資・コンサルティング事業の状況　・・・10

Ⅳ.　2027年3月期連結業績予想　・・・14

Ⅴ.　その他財務情報　・・・16

Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

Ⅰ．2027年3月期第2四半期連結決算概要

Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

2027年3月期第2四半期連結決算：ハイライト

当第2四半期連結業績は、創薬支援事業の業績改善と投資・コンサルティング事業の好調な推移を受け、売上高・各利益ともに前年同期比で大幅な増収増益を達成。

- **創薬支援事業**
  前期に実行した構造改革の効果により費用構造が大きく改善。売上高は、前年同期比＋4.1%の増収、営業損失についても赤字幅が縮小（+26百万円改善）。
- **投資・コンサルティング事業**
  商社事業における大型案件の納品集中が主因となり、売上高は、前年同期比＋15.3%の増収、営業利益についても前年同期比＋20.1%と大幅増益を達成し、全社業績を牽引。

売上高 7,069百万円　前年同期比 ＋844百万円

前年同期	6,224百万円	＋13.6%	＋844百万円
創薬支援事業	975百万円	＋4.1%	＋38百万円
投資・ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ事業	6,096百万円	＋15.3%	＋806百万円
本社・連結調整	△3百万円	－%	－百万円

営業利益 161百万円　前年同期比 ＋90百万円

前年同期	71百万円	＋126.7%	＋90百万円
創薬支援事業	△48百万円	－%	＋26百万円
投資・ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ事業	294百万円	＋20.1%	＋49百万円
本社・連結調整	△83百万円	－%	＋14百万円

経常利益 102百万円　前年同期比 ＋19百万円

前年同期	83百万円	＋23.2%	＋19百万円

親会社株主に帰属する当期純利益 88百万円　前年同期比 ＋58百万円

前年同期	29百万円	＋199.5%	＋58百万円

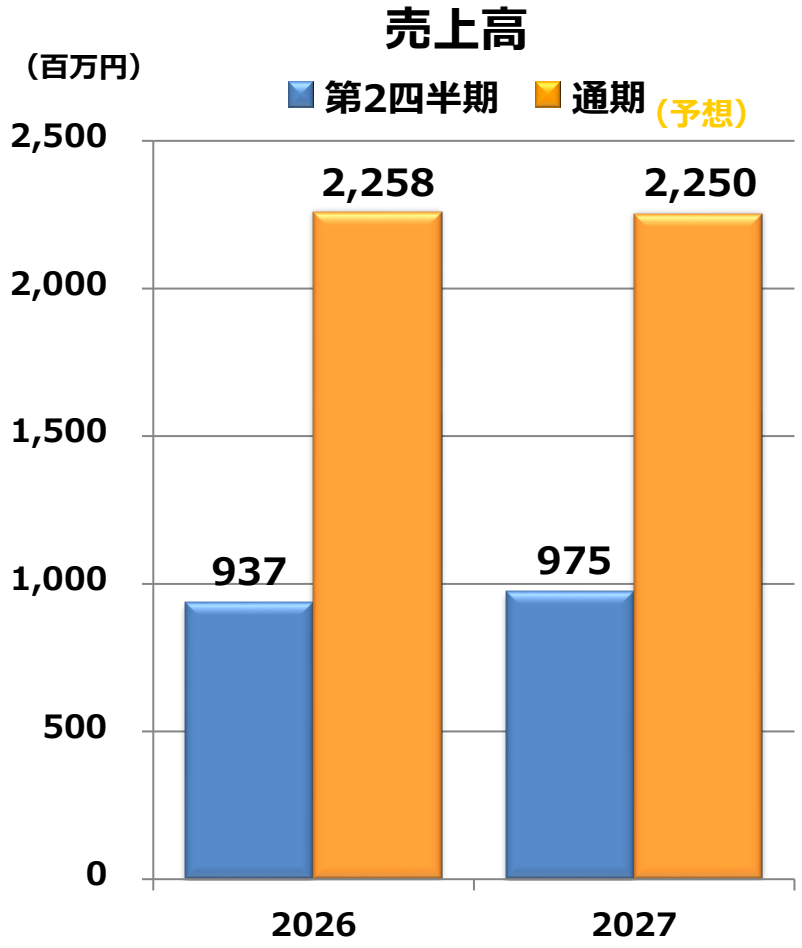
Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

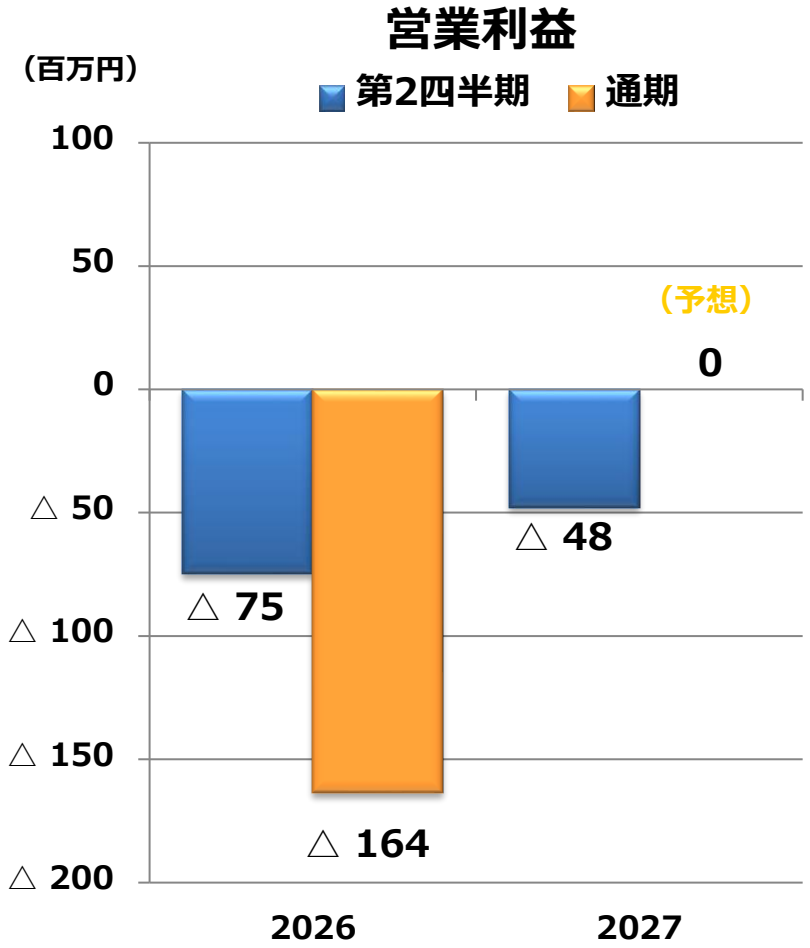
Ⅱ. 創薬支援事業の状況

Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

創薬支援事業：業績概要(1/2)

- 構造改革の成果発現：前期に実施した構造改革に伴う販管費の圧縮（前年同期比△16百万円）を中心にコスト削減効果が着実に発現。
- 収 益 体 質 の 改 善 ：前年同期比4.1%の増収に加え、徹底した費用抑制により、営業損失は赤字幅が縮小（前年同期比+26百万円改善）。

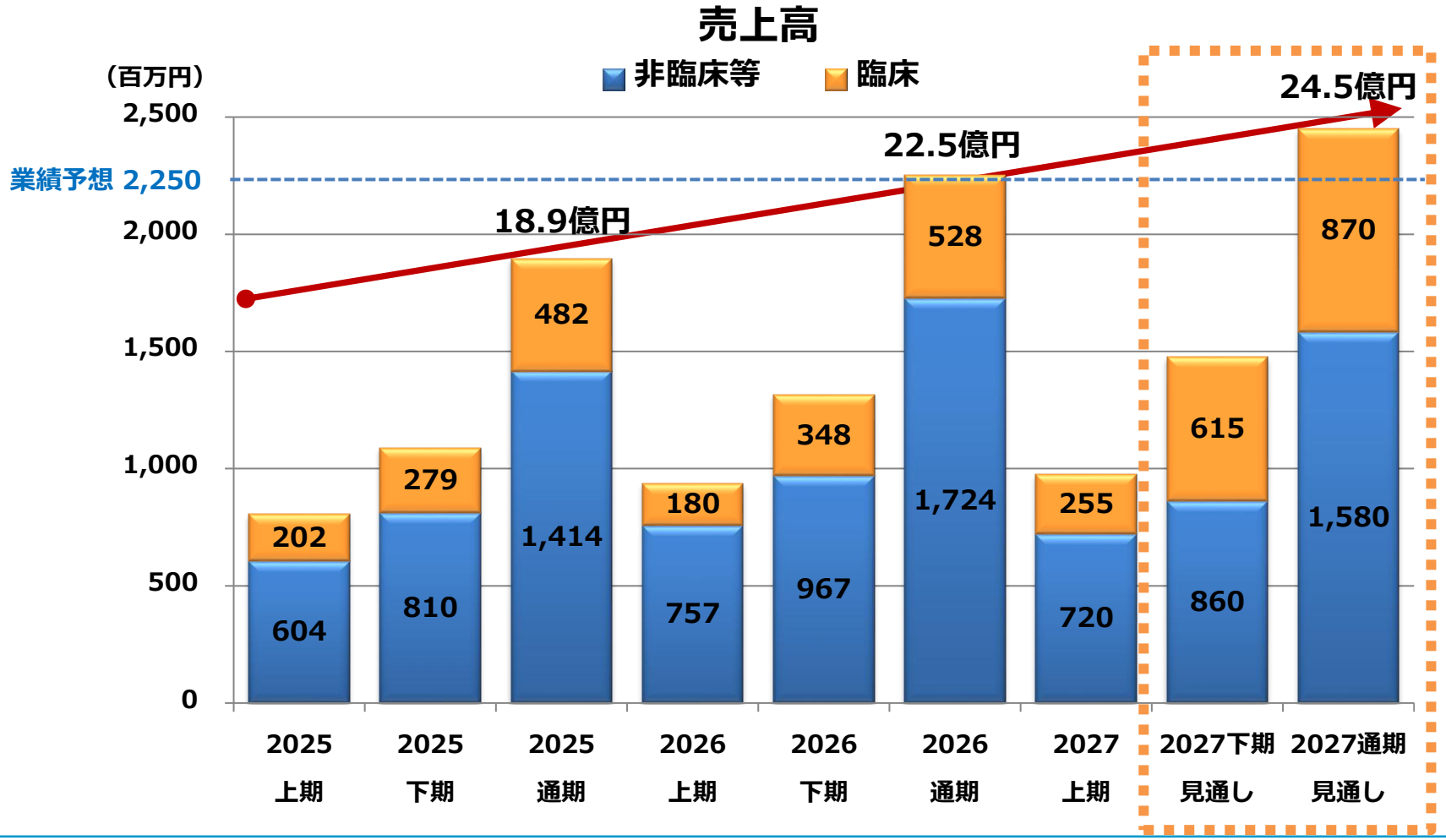


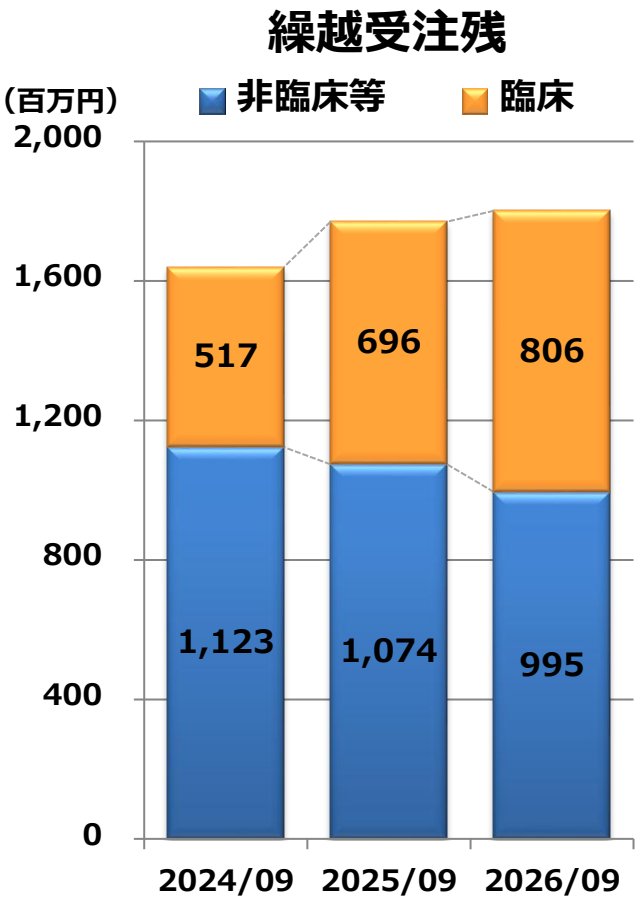


Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

創薬支援事業：業績概要(2/2)

- 臨床事業が牽引し通期売上高は前年比・予算比で約2億円の上振れとなる約24.5億円。3期連続の増収見通しだが、下期事業進捗状況等を精査中であり、通期業績予想の修正については精査完了後に改めて公表予定。
- 下期偏重型の売上構図であり、上期赤字を下期売上高と構造改革効果で吸収し「黒字化」を目指す。





Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

創薬支援事業：構造改革の成果発現（収益体質の抜本的改善）

➢ 売上高は堅調に推移し38百万円の増収。一部不採算案件の消化を進めつつも、販管費・固定費の徹底した圧縮により、営業損益は＋26百万円の改善。

①売上総利益の改善　＋10百万円	②販管費の圧縮　16百万円	③営業損益の改善　＋26百万円
（137百万円→147百万円）	（前年同期比△16百万円、7.6%の削減）	（△75百万円→△48百万円）

科　目 単位：百万円	2026 第2四半期	2027 第2四半期	差　異	コ　メ　ン　ト
売　上　高	937	975	＋38	売上高は堅調に推移し、＋38百万円（前年同期比＋4.1%）の増収。
売上原価 （原価率）	800 （85.4%）	828 （84.9%）	＋27 （△0.5%）	売上高増に伴い売上原価も27百万円増加したものの、全体原価率は前年同期比0.5pt改善（85.4%→84.9%）。
売上総利益	137	147	＋10	売上高増に伴い、売上総利益も＋10百万円の増益。
販　管　費	212	196	△16	固定費削減により販管費は16百万円（前年同期比7.6%）の圧縮。
営　業　利　益	△75	△48	＋ 26	増収及び営業費用の削減により営業損益は＋26百万円の改善。

Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

創薬支援事業：事業トピック（直近の主な取り組み）

Trans Genic Group

➢ 当社の強みである技術力・知財・グループ内外との連携を基盤に、創薬支援事業の競争力強化を図るとともに、事業構造改革の実行により事業基盤の再構築を推進。

2026年4月22日リリース

エクソンヒト化マウス 米国特許成立

日本・欧州に続き、米国でも権利化
グローバルな知財基盤をさらに強化

技術の強み

- ☑ ヒトの遺伝子発現を量的にも組織特異的にも正常に再現
- ☑ 薬効・毒性評価の精度向上に貢献
- ☑ 核酸医薬・遺伝子治療等の開発を強力に支援

主な特許取得状況

2025年7月2日	特許番号：第7699749号
2025年8月21日	特許番号：EP3978607B1
2026年6月30日	特許番号：US 12,668,810

独自技術の保護と競争優位性の確立

2026年5月27日リリース

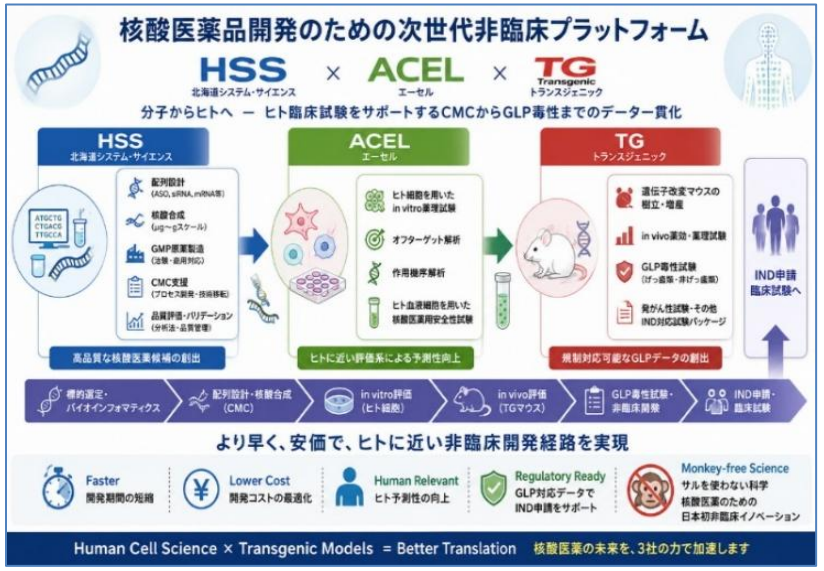
子会社2社の吸収合併
（10月1日完了）

経営資源の有効活用と管理コスト削減を目的に、グループ子会社の再編（医化学創薬㈱と㈱プライミューン、㈱MASCと㈱メディフォム）を2026年10月1日付で完了

グループ運営の効率化

2026年7月7日～9日

核酸医薬学会に参加
（3社共同の開発支援プラットフォームを発表）



3社連携による競争力強化と事業拡大

2026年11月4日リリース

神戸研究所の譲渡

拠点集約による固定費約1億円の削減と大動物薬理事業の磐田研究所への集約

（詳細については次頁ご参照）

「知財強化」・「外部連携」・「事業体制の最適化」を推進し、創薬支援事業の早期黒字化定着と、持続的成長及び企業価値の向上を目指す。

3年後の経営目標	売上高　25~30億円 営業利益　2 ~ 3億円

Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

創薬支援事業：戦略的資産入替（神戸研譲渡）による構造改革

➢ 経営資源の有効活用及び資本効率の向上を図るため神戸研究所を譲渡。拠点集約と財務基盤強化により「創薬支援事業の黒字化」と「M&A加速」を実現する。

神戸研究所の譲渡（2026年11月9日売買契約締結）



譲渡価額（税抜）	譲渡益（概算）	譲渡先
1,266百万円 （税込 13億円）	310百万円 （譲渡に係る費用の見込額控除後）	国内事業法人 （非公表）

業績への影響：2027年3月期第3四半期連結会計期間において固定資産売却益約310百万円を特別利益として計上する見込みです（2026年5月13日公表の通期連結業績予想には織り込んでおりません）。下期の事業進捗を精査中であり、通期業績予想の修正が必要と判断された場合は速やかに公表いたします。

譲渡による構造改革の効果（創薬支援事業の黒字化 × M&A加速）

創薬支援事業

拠点集約による収益構造の抜本改善

① 維持管理費等の固定費消滅

年間約1億円の施設維持費・償却費等を恒久的に圧縮。

② 磐田研への大動物薬理事業移転

磐田研究所へ事業を集約し、稼働率向上と売上拡大を同時に実現。

投資・コンサルティング事業

財務基盤強化と借入能力拡大によるM&A加速

① 13億円の資金化による財務体質強化

手元資金増加により信用力が飛躍的に向上。

② 銀行調達余力の劇的拡大

充実した手元資金を梃子に、高収益・安定事業の買収を一気に推進。

投資・コンサルティング事業による「創薬支援事業の赤字補填構図」に完全終止符を打ち、「創薬支援事業の黒字化」＋「M&A加速」が重なり、本来目指した「ハイブリッド収益・成長モデル」を確立。

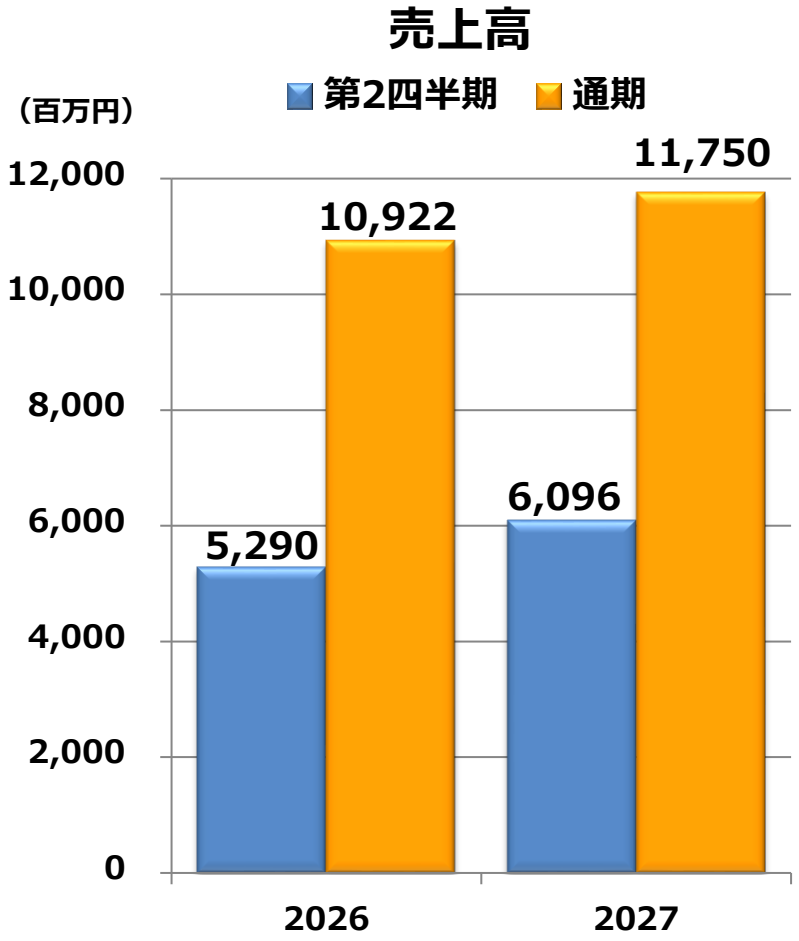
Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

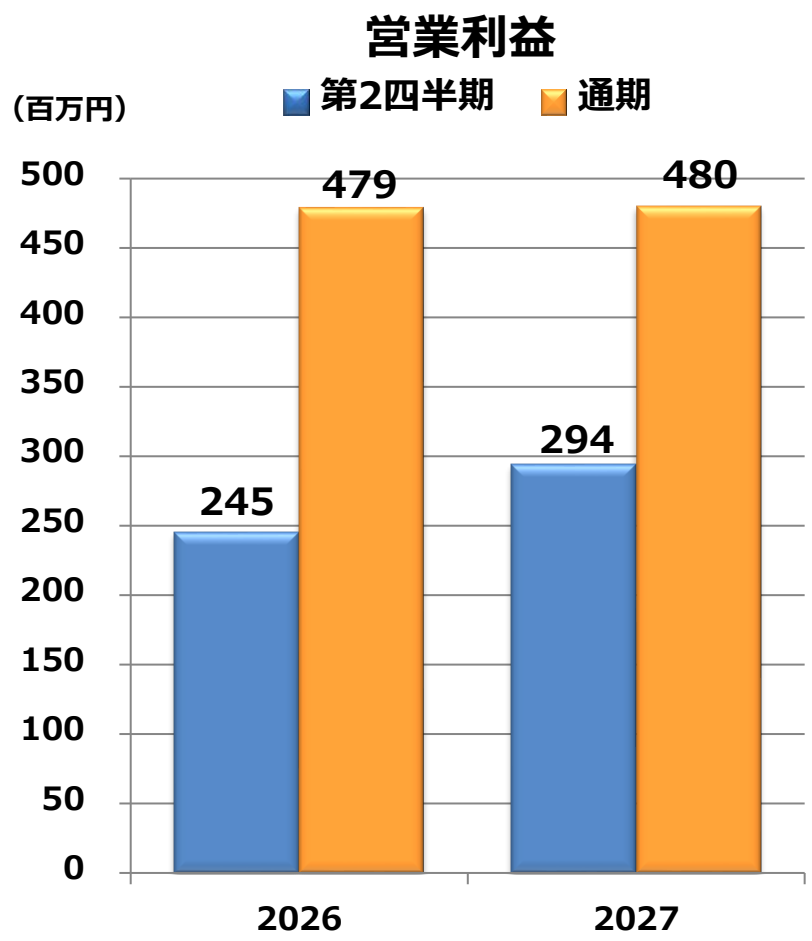
Ⅲ. 投資・コンサルティング事業の状況

Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

投資・コンサルティング事業：業績概要(1/2)

- 商社事業における大型案件の納品集中やEC事業、製造等事業の利益拡大により、売上高6,096百万円（前年同期比+15.3%）、営業利益294百万円（前年同期比+20.1%）と大幅な増収増益を達成。
- 当第2四半期時点での通期予想に対する進捗率は高水準（営業利益進捗率61.3%）であるものの、第3四半期以降の需要動向や事業環境の変化を慎重に見極め、引き続き業績管理を徹底。

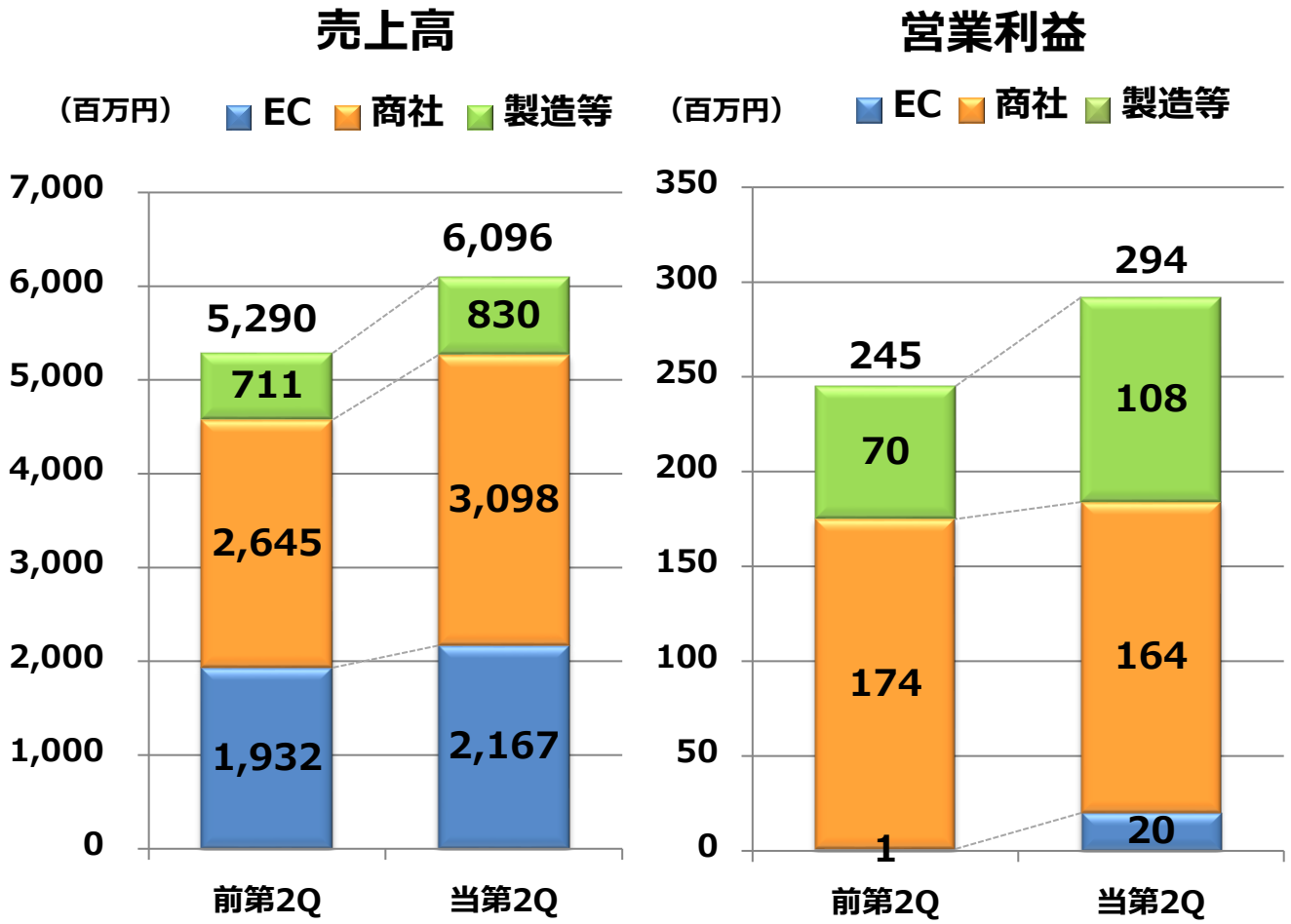




Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

投資・コンサルティング事業：業績概要(2/2)

➢ 商社事業における大型案件の納品集中に加え、EC事業および製造等事業での価格転嫁が進み、前年同期比で増収増益を達成。セグメント利益は294百万円（前年同期比+20.1%）と大幅に拡大。



部　門	項　目	増　減 単位：百万円	コメント
E　C (黒字化)	売　上　高	+235	物価高の浸透に伴い流通量が回復。適切な価格転嫁と在庫適正化の結果、営業利益+19百万円の改善。
	営 業 利 益	+19	
商　社 (牽引)	売　上　高	+453	円安進行で粗利率が悪化し減益となったものの、大型案件の納品集中が寄与し、第2四半期における売上高は高水準を堅持。
	営 業 利 益	△9	
製造等 (堅調)	売　上　高	+118	売上高が堅調に推移するとともに、仕入高騰等に対する適正な価格交渉と徹底したコスト管理を推進し、大幅な増収増益を達成。
	営 業 利 益	+38	
合　計	売　上　高	+806	大型案件の爆発力と既存事業の収益改善が噛み合い、前年同期比で大幅な増収増益を達成。
	営 業 利 益	+49	

Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

投資・コンサルティング事業：中期成長モデル

投資・コンサルティング事業は、2017年11月の事業開始からこれまで「9期連続黒字」＆「4期連続増益」。
今後も独自の事業承継型M＆Aのロールアップ とPMIの徹底により、グループ全体の利益成長を強力に推進。

PHASE 01
規律ある事業承継M&A

■ ターゲットの厳選基準
強固な顧客基盤・独自商流を有し、即効性あるキャッシュフロー創出が可能な中小・ニッチ企業（商社・B2Bサービス・製造業等）。

■ 財務健全性を担保した調達
被買収先の事業収支および信用力を背景とした銀行借入（ノンリコース/デット）を活用し、ROEを意識したM&Aを推進。

■ 豊富な承継パイプライン
後継者不在に悩む優良企業の事業承継ニーズを着実に取り込み、安定的買収機会を継続確保。

投資基準をクリアした優良企業を厳選

PHASE 02
PMI徹底による収益最大化

■ 適材適所の人員配置と自律型組織構築
社員との対話により適材適所を実現し、事業規模に応じたAIツール等の導入とKPI設定により、少人数での自律型組織を構築。

■ 価格転嫁・原価交渉力
仕入先との連携強化および適正な価格転嫁交渉を徹底し、インフレ下でも適正粗利率を確保。

■ 在庫適正化と運転資本改善
EC事業及び商社事業においては在庫管理を強化し、運転資本拡大を回避し資金収支を改善。

■ 実証済みの改善実績
EC事業では在庫適正化と価格転嫁推進により黒字化（+20百万円）を実現。製造等事業では、コスト管理強化と価格転嫁推進により増益（+38百万円）

再現性の高い改善モデルを買収先に展開

PHASE 03
連続再投資と全社成長加速

■ 安定キャッシュ創出エンジン
ボラティリティの低い収益事業をグループ内に複数保有し、毎期安定した営業キャッシュ・フローを創出。

■ 成長投資への連続投資サイクル
創出されたキャッシュを次なるM&Aへ再投入し、売上規模と営業利益水準を非連続に拡大。

■ 財務基盤強化によるM&A加速
神戸研の資産譲渡（1,266百万円資金化）による自己資本充実と借入余力の拡大を通じ、本M&A戦略を強力に後押し。

創薬支援事業の黒字化と連動し、高い成長率でハイブリッド型経営を実現

※ 個別のM&A検討案件につきましては、適時開示基準および進捗状況等に基づき、公表すべき事項が決定した段階で速やかに開示いたします。

Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

Ⅳ. 2027年3月期連結業績予想

Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

2027年3月期 連結業績予想

当第2四半期における利益計画の進捗率は高水準（営業利益進捗率62.3%）で推移しておりますが、第3四半期以降の需要動向や事業環境の変化を慎重に見極めるとともに、神戸研売却に伴う影響等を精査し、通期業績予想につきましては改めて公表させていただきます。

単位：百万円	2027年3月期 （通期業績予想）	2027年3月期 第2四半期(実績)	進捗率 (%)
売上高	**14,000**	**7,069**	**50.5**
創薬支援事業	2,250	975	43.4
投資・コンサルティング事業	11,750	6,096	51.9
本社・連結調整	0	△3	–
営業費用	**13,740**	**6,907**	**50.3**
創薬支援事業	2,250	1,024	45.5
投資・コンサルティング事業	11,270	5,802	51.5
本社・連結調整	220	80	36.7
営業利益	**260**	**161**	**62.3**
創薬支援事業	0	△48	–
投資・コンサルティング事業	480	294	61.3
本社・連結調整	△220	△83	–
経常利益	**200**	**102**	**51.3**
親会社株主に帰属する当期純利益	**150**	**88**	**59.0**

Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

Ⅴ．その他財務情報

Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.

2027年3月期第2四半期連結決算：連結キャッシュ・フロー

➢ 先行投資や運転資金の拡大に伴う営業・投資キャッシュ・フローに対して、機動的な銀行借入による資金調達を実施。この財務活動によるキャッシュ・フローの大幅なプラスにより、手元流動性は健全な水準を維持。

単位：百万円	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	前年同期比
営業活動による キャッシュ・フロー	△568	△591	△22
投資活動による キャッシュ・フロー	△35	△42	△6
財務活動による キャッシュ・フロー	261	587	326
現金及び現金同等物の増減額	△343	△41	301
現金及び現金同等物期首残高	2,541	2,100	△441
現金及び現金同等物期末残高	2,198	2,058	△139

主な内訳	
●営業ＣＦ	
税金等調整前中間純利益	95
売上債権の増加額	△351
棚卸資産の増加額	△252
前渡金の減少額	327
前受金の減少額	△422
●投資ＣＦ	
有形固定資産の取得による支出	△22
●財務ＣＦ	
社債の償還による支出	△109
短期借入金の増加額	940
長期借入金の返済による支出	△236

Copyright© TRANS GENIC GROUP INC. All Rights Reserved.



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

https://transgenic-group.co.jp